

学級経営について 総括

令和6年2月27日（火）

研究主任 甲斐

1. 令和5年度の総括

今年度も、H27年度から積み上げてきた取組（フリートーク・ほめ言葉のシャワー・価値語・成長ノート）を継続して取り組み、校内研究において、取り組み状況の確認や共有、改善策等を協議することができた。

また、学級経営の取り組みについて、藤田理論をもとに「互いの良さが『わかる』」ようにする取り組みとして見直した。教師が児童の良さを分かち合い価値あるものとして位置付けることで、豊かなコミュニケーション活動を行う土台となる人間関係育成がされる過程について、共通理解を図ることができた。また、学級経営という学級個別の取り組みを、全校をあげて取り組む価値についても確認することができた。

「自己他者肯定感テスト」における「自己・他者肯定群」に位置する児童が年間2回**平均83%**と、検証指標の目標を達成することができた。年間を通して、各学級担任が、取組の意義を確認したり取組方を見直したりすることで活動が高まり、良好な人間関係の醸成へつながったと考える。

2. 5点セット

校内研究テーマ	<u>グローバルリーダーに求められる確かな学力の育成</u> ～情報活用能力の育成～（1年次）
重点目標	豊かなコミュニケーション活動の土台を育む人間関係の醸成
達成指標	（1）「自己・他者肯定感テスト」において、「自己・他者肯定群」に位置する児童が全体の82%以上 →7月の結果は、平均が 83% →年間2回の平均が 83%
重点的取組	（1）4つの取組のブラッシュアップ及び相互に関連付けた取り組み ①フリートーク ②ほめ言葉のシャワー ③成長ノート ④価値語
取組指標	（1）4月の研修で、4つの取組を相互に関連付ける取り組みについて、昨年度までの取り組み例を伝え合ったり、昨年度までの課題を確認したりして、今年度の取り組み方について共通理解する。8月の研修で、学年ごとに7月までの成果と課題をまとめ、後期に向けてブラッシュアップする。 ①4月にフリートーク公開・事後研を行い、フリートークのねらいや取り組み方について、共通理解をする。研修にて各学級の取組について振り返り、改善していく。 →フリートークの公開・事後研、現状報告や困りの出し合い、学年に応じた目指す姿や価値付けの方向性確認等を行った。 →8月に、「えがお・アセスアンケート」をもとに各学級の気になる児童について分析し、挙げられた児童への支援という目的のもとブラッシュアップを図った。 →1月に、藤田連携統括長の講義内容をもとに、フリートークを通して分かち合われた価値とその指導の具体について見直した。

	<p>②ほめ言葉のシャワーについて、5月の研修でねらいや取り組み方について共通理解し、5月以降に実施していく。後期の研修で、各学級での取り組み方（1巡目・2巡目のやり方、板書の仕方、教室掲示等）を持ち寄ったり課題や困りを出し合ったりし、改善していく。</p> <p>→5月に、ほめ言葉のシャワーの公開・事後研を行い、ねらいや取り組み方、学級経営との関連のさせ方等について共通理解することができた。</p> <p>→8月に、「えがお・アセスアンケート」をもとに各学級の気になる児童について分析し、挙げられた児童への支援という目的のもとブラッシュアップを図った。</p> <p>→1月に、各学級でのほめ言葉のシャワーの取り組みを共有する中で新たな取り組み方について紹介し、見直しを図った。</p> <p>③成長ノートは、4月の研修で共通理解をし、各学級で実施する。主に行事や節目の時に、自分の取組を振り返り、付けた力を自覚できるようにしたり、次の目標を持たせたりする。目標に向け、自分の達成具合が分かるように、継続して書かせる。8月の研修で、気になる児童や変容の見られる児童の成長ノートを持ちより、「いつ、どんな内容で書かせたか、それをどう活用したか」など、意見交流し、後期の取り組みにつなげていく。</p> <p>→8月に、「えがお・アセスアンケート」をもとに各学級の気になる児童について分析し、挙げられた児童への支援という目的のもとブラッシュアップを図った。</p> <p>→後期は、学期や学年のふり返りや行事を通した成長について書いたことを、キャリアパスポートにつなげる。</p> <p>→2月に、成長ノートの取り組み方(振り返りと目標の設定)について共有し、取り組みの見直しを図った。</p> <p>④価値語は、4月の研修で共通理解をし、各学級で実施する。8月の研修で教室掲示を持ちより、「どのようなつくり方や位置づけ方が効果的か」などについて意見交流し、後期の取組につなげていく。</p> <p>→8月に、「えがお・アセスアンケート」をもとに各学級の気になる児童について分析し、挙げられた児童への支援という目的のもとブラッシュアップを図った。</p> <p>→後期は、校内研修の中で学級経営に関する情報交流を適宜行い、常時的なブラッシュアップを図り、日常の実践につなげる。</p> <p>→1月に、藤田連携統括長の講義内容をもとに、価値語を通した「良さを分かち合う」指導のあり方について見直しを図った。</p>
外部評価	<p>学校評議委員や指導主事等を年間2回程度招聘し、状況を確認及び評価していただく</p> <p>→学校評議員による視察・観察により、本校全体の学級指導の在り方について指導・助言を頂いた。「フリートーク等の取り組みで、多様な良さを認め自己開示する児童の姿を見ていると、学校教育目標の達成や昨今の社会で求められる多様な人とのコミュニケーション力の育成に効果的であると感じる」とのことであった。後期も引き続き、このような機会を活用していく。</p>

→2月に学校評議員による視察・観察を通して取り組みの評価を受けた。

3. 4つの取組の年間計画

相互に関連付けながら取り組んでいく
(行事・集会での話・学級活動等)

	フリートーク (朝の会)	ほめ言葉のシャワー (朝の会)	成長ノート (キャリアパスポート)	価値語
4月	研修で共通理解 実施		研修で共通理解 実施	研修で共通理解 実施
5月	学年内で互いに 見合う			
6月		研修で共通理解 実施		
7月				
8月	ブラッシュアップ		ブラッシュアップ	ブラッシュアップ
9月				
10月				
11月				
12月	研修：各取組の進捗状況の確認・成果・課題			
1月				
2月				
3月				

県の改善の重点を受けた授業研究について 総括

令和6年2月27日（火）

研究主任 甲斐

1. 令和5年度の総括

今年度は、令和5年度の改善の重点に沿って、各教科の取組を再度見直し、全ての教科・領域において授業を行い、県内外の学校へ周知・公開することができた。公立学校にモデルを示したり授業作りについて一緒に考えたりする場を設けることができ、本校の使命を果たすことができたと思う。

また、「授業観察シート」の平均は検証指標の目標を概ね達成することができ、本校職員の授業力を高めることに資することができた。

2. 5点セット

校内研究テーマ	グローバルリーダーに求められる確かな学力の育成 ～情報活用能力の育成～（1年次）
重点目標	県による「各教科の改善の重点」を具現化した各教科の授業の構築と授業公開
達成指標	<p>① 令和5年度小中学校教育課程研究協議会（12月）にて、レポート提出及び本校作成の単元及び授業プランを、授業公開等を通じて発信 →5～7月の間に授業公開で13本授業（外国語、総合、社会、生活、図工、体育、家庭、理科、音楽、算数、特活、道徳、国語）を実施し、延べ91名の参加者に授業を公開した。 →各教科で令和5年度小中学校教育課程研究協議会に参加した。 →11月に外国語セミナーを開催した。県内外から63名の参加があり、授業公開（45分授業4本・モジュール授業3本）及び事後研（指定討論形式）、直山視学官の講演を行った。その様子は、当日Zoom配信で26名、後日動画配信で116名に向けて発信することができた。</p> <p>② 指導教諭等による評価の平均が3.0以上 →4～7月の授業観察の平均は2.99点 →4～2月の授業観察の平均は2.97点</p>
重点的取組	<p>①県による「各教科の改善の重点」の分析、また本校の課題及び具体的な取組を明確にし、それを具現化した授業づくりと授業公開を行う。 →教科部ごとに、県による「各教科の改善の重点」を本校の児童の実態をもとに分析し、授業づくりと授業公開を行った。 →11月の外国語セミナーにおける授業公開・事後研を通じて、本校作成の単元及び授業プランを参加者に発信することができた。 →5～7月の授業公開の授業の様子と修正指導案をHPで公開をした。11月の外国語セミナーの授業の様子・事後研・直山視学官による講演について、申込者に配信を行った。</p> <p>②指導教諭等による授業参観及び、指導教諭等による指導・助言をもとに授業改善を行う。 →前期の間に1人1回以上実施。1月までに第2回目を実施する予定。 →指導教諭による授業観察を年間36回（1人あたり2回）実施。</p>
取組指標	①県による「各教科の改善の重点」を受け、教科ごとに再度分析しなおし、本校における現状と課題、及び改善を図るための具体的な取り組みについて、各教科で再検討し完成させる。それをもとに、日常的に授業実践していくよう

	<p>にする。</p> <p>→県による「各教科の改善の重点」を受け、教科ごとに再度分析しなおし、本校における現状と課題、及び改善を図るための具体的な取り組みについて「提案文書」にまとめた。後期は授業公開で受けた指導や振り返りをもとに、日常の授業実践や「学び合いの授業」の中でさらなる改善を図っていく。</p> <p>→公開した授業について、全員が修正指導案を作成し、授業改善に活かすことができた。また、過去の実践を学び合いの授業に活かしたり大学教員と継続的に連携をとって授業研究を行ったりと、授業改善を図ることができた。</p> <p>① 5月～7月に、全教科計13本を7日間の授業公開で実施する。外国語においては、11月に「外国語セミナー」を実施する。</p> <p>→授業公開の中で、全教科について事前研・授業公開・事後研を行った。</p> <p>→授業公開に向けた事前研は、教科部、学年部、研究主任等で放課後に随時行った。後期も、授業観察や学び合いの授業を通して、授業改善に向けて引き続き行っていく。</p> <p>→11月に外国語セミナーを実施した。全体での事前研を1回、学年部ごとの事前研を1回、その他必要に応じて指導案審議を行い、授業実践の力を高めることができた。</p> <p>② フォローアップ研修で公開する5教科（国語科、生活科、理科、図画工作科、外国語科）の授業動画撮影を行い、県下の公立学校へ周知・公開していく。</p> <p>→5～7月に5教科（国語、生活、理科、図工、外国語）の授業公開を実施し、その際動画撮影を行った。動画は9月から実施される県センター主催のフォローアップ研修にて活用される。成果については、研修直後のアンケートと、事後の活用に関するアンケートにて検証する予定である。</p> <p>→フォローアップ研修の研修後アンケートについて、「内容を踏まえ、実践に活かそうなものがあったか」という質問について、39件中39件で肯定的な回答を得られた。県下の公立学校のための効果的な学びの機会になったと思われる。追跡調査でも、回答した27件中、実践や校内研修に活かした20件、今後活かしたい7件と、肯定的回答が100%であった。</p> <p>→理科の授業公開と授業づくりに関して、教育庁チャンネルにて公開した。</p> <p>②授業公開後は全体・教科ごとで事後検討会（指定討論形式）を行うとともに、指導教諭等は「授業観察シート」に沿って評価を行う。指導教諭等による指導・助言をもとに授業改善に生かしていく。</p> <p>→授業公開後は各教科で事後検討会（指定討論形式）を行った。一般参加者を含めた討議や指導主事による指導・助言により、有意義な指定討論会になった。しかし、多くて同時に3教科の公開となることから、各教科の成果が全体で共有できないという課題が昨年度同様であり、今後授業公開と校内研究の関係性のあり方を検討していく必要がある。</p> <p>→11月の外国語セミナーにおいても、事前授業において授業観察シートを用いて評価を行ったり、指定討論形式の事後検討会を実施したりし、授業改善を行うことができた。しかし、議論を深めるために、フロアからの意見を積極的に取り入れるような事後検討会のあり方を求める声もあり、その行い方については検討する必要がある。</p>
外部評価	学校評議委員や指導主事等（県教委義務教育課・大分教育事務所）を年間2回

	<p>程度招聘し、状況を確認及び評価していただく</p> <p>→学校評議員に授業を見ていただき、指導・助言を受けた。</p> <p>→授業公開で指導主事 13 名に授業を見ていただき、事後検討会で指導・助言を受けた。</p> <p>→大分県教育委員会友永指導主事を年間 5 回招聘し、生活科・総合的な学習の指導の時間の単元づくりや指導の在り方について、指導・助言をいただいた。</p> <p>→大分県幼児教育センター武津スーパーバイザーを招聘し、学びの見取りに関して指導をいただいた。</p> <p>→学校評議員より 3 回指導を受けた。</p>
--	--

3. 研修計画

日時	内容	
4月4日	校内研究全体計画	今年度の授業研究について 新大分SD理論研修
4月5日		県の重要課題について、具体説明
5月30日	○外国語	新大分SD授業公開・事後研 フォローアップ研修動画撮影
6月6日	総合	新大分SD授業公開・事後研
6月13日	○生活・社会	新大分SD授業公開・事後研 フォローアップ研修動画撮影
6月20日	○図工・体育・家庭	新大分SD授業公開・事後研 フォローアップ研修動画撮影
6月27日	○理科・音楽・算数	新大分SD授業公開・事後研 フォローアップ研修動画撮影
7月4日	○国語・特活・道徳	新大分SD授業公開・事後研
11月25日	外国語セミナー	新大分SD授業公開・事後研
1月23日	生活・総合	新大分SD授業公開

○は、フォローアップ研修動画撮影教科

今年度の外国語活動・外国語科について【総括】

R6.2.27

外国語担当 廣瀬

1. 総括

一年を通して、本校の外国語の取組や今年度の方向性について共通理解をする機会を設け、取組を続けてきた。年度初めには、『漆塗り』の授業展開の在り方（単元構成）」など、これまでの本校の取組について共通理解を図る場を設定した。また、5～8月の校内研修や公開授業において、「中間指導の在り方」「他教科との関連を見通した単元構想」を中心に情報共有を行ってきた。11月には、外国語セミナーを行い、県内外の先生方を対象に全学年が授業公開を行うことができた。直山視学官と田代指導主事を招聘することで、事後研において、全学年が指導・講評をいただくことができた。公開授業に加え、事後研の在り方や直山視学官の講演などについて概ね好評な意見を得ることができた。直山視学官からは、単元構想や授業展開について一定の評価をいただいたが、次年度に向け、「コミュニケーションの目的内容に合った表現選択」について、ご指導いただいた。

今後、本校の外国語教育について研修などを通して教員間で共通理解を図るとともに、日々の授業を通して授業改善に取り組んでいく。

2. 5点セット

校内研究テーマ	グローバルリーダーに求められる確かな学力の育成 ～情報活用能力の育成～
重点目標	既存の知識や新たに習得した情報を活用して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育む授業の推進
達成指標	① 指導教諭による評価(4段階)が、1、2年目の教諭 2.7以上、3年目以上の教諭 3.0以上 ② 授業参観後のアンケートで、参観者の自校での活用に関する肯定的な回答の割合が6割以上
重点的取組	① 課題解決へ向けた授業づくり・互見授業の実施 ② 公立校への授業公開
取組指標	① について <ul style="list-style-type: none"> ・4～7月の校内研究において、これまで取り組んできた「漆塗りの授業の展開の仕方」、「児童の思考を促す適度な困りの設定（思考・判断・表現、主体的な学習に取り組む態度につながる目的・場面・状況の設定）」等について共通理解を図り、外国語部と学年部が連携しながら授業づくりを行う。また、昨年度指導を受けた項目「他の教科・領域との関連を見通した単元構想」や「評価の在り方について（中間評価も含む）」について、実際の授業を通して課題解決に取り組む。 →4～8月の校内研修において、上記の点について共通理解を図ることができた。 →5月31日に外国語部が授業を行い、「中間指導」「他教科との関連を見通した単元構想」「評価の在り方」等について共通理解を図った。 ・外国語部と各学年部が連携し、指導案作り、授業づくりを行う。 →外国語セミナーの事前研や、観察授業の振り返りを行った。 ・前期までに、指導教諭・研究主任・外国語担当・学年部による互見授業を学年1名以上設定し、11月の外国語セミナーでの実践に繋げる。1月までに観察授業を全員行う。 →指導教諭による評価(4段階)は1、2年目の教諭 2.88、3年目以上の教諭 3.06だった。 ② について <ul style="list-style-type: none"> ・5月の授業公開では、外国語部が校内だけでなく地域の学校等に向け「他の教科・領域との関連を見通した単元構想」や「評価の在り方（中間評価も含む）」に関する授業を公開し、共通理解を図る。 →小中連携外国語事務局会を通じて、附属中の先生方に声をかけ、当日の授業と事後研に参加していただいた。 →「中間指導（ターゲットセンテンスの焦点化・二段階中間指導）」「他教科との関連を見通した単元構想（道徳・特別活動）」「評価の在り方（『聞くこと』における『思考・

	<p>判断・表現』」等について公開することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語セミナー(11月25日)において、授業公開と事後研究会を行う(指導主事等や中学校に声をかける。)。また、ホームページにて動画配信を行う。 →3年と6年は田代指導主事に、4年と5年は直山視学官に指導・講評をいただいた。動画配信も指導教諭と研究主任が実施した。 ・要請があれば、他校からの視察日を設定し、積極的に視察を受け入れたり、外部講師として出前授業を行ったりする。 →8月23日(水)に指導教諭が日田市立いつま小学校にて外部講師として研修を行った。
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の授業公開においては、指導主事を招聘し、11月25日(土)に開催の外国語セミナーにおいて、直山木綿子視学官や指導主事を招聘し、本校の取組を評価していただく。 →5月31日(火)授業公開において、田代指導主事を招聘し指導講評をいただいた。 →11月25日(土)に開催の外国語セミナーにおいて、直山視学官からは、昨年度指導を受けた項目(「他の教科・領域との関連を見通した単元構想」や「評価の在り方」等)に関して、一定の評価をいただいた。 ・附属中入試後の1月に6年生のみ外部評価を行い、本校の6年間の実践の成果を図る。(昨年度から英検ESGを行っている) →1月23日(火)、6年生が外部評価ESG(無料)を行った。団体総合平均スコアは510/550であった。技能別平均は、リスニング 247/275 (95.3%)、リーディング 263/275 (96.3%)であった。英検5級程度の技能を持つ児童の割合は、90%だった。 ・授業公開と外国語セミナーの事後アンケートを行う。 →授業参観後のアンケートで、参観者の自校での活用に関する肯定的な回答の割合71.3%

3. 研修計画

○研修時には、年間5回、10分程度の外国語スキルアップ研修を行う。

→校内研修において、1回15分程度の外国語スキルアップ研修を計5回行った。

○5月に外国語部による提案授業を設定し、本校の外国語授業についてイメージを掴めるようにする。

→5月31日に外国語部が授業を行い、上記の点について共通理解することができた。

○外国語セミナー(11月25日)において、事前授業や授業公開を実施する。(指導主事等や中学校に声をかける。)

→外国語セミナー(11月25日)について、直山視学官と田代指導主事を招聘した。附属中学校の英語部に呼びかけ、1名以上の参加があった。

4. 小中連携外国語事務局会について

・事務局会や互見授業・事後検討会を、年間を通して随時行っていく。

→6月23日に附属中の英語科(中村教諭)、11月8日に附属中の英語科(三村教諭)、11月22日に附属中の英語科(白根教諭)の授業を参観し、事後研に参加した。

→2月16日に小中連携外国語事務局会を行い、今年度の小中連携のまとめを行った。

・昨年度より、互見授業と事後研の参加が増えた。

・教科書を見合った上で、連携を意識した授業を行った。

・内部評価(外国語アンケート)が、小中連携のために必要か？

中学校：同じアンケートを小学校と中学校で取ることに、連携の意義があるのではないか。アンケートを基に、授業を改善している。

小学校：アンケート結果を授業改善に生かしていない実態がある。例年、同じような結果になると、アンケート結果と実態が合わないという問題がある。

・来年度の中学入試について、小学校における「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の情報共有をした。